

那 須 岳

概況(平成17年7月)

火山活動に変化はなく、静穏に経過しました。

地震及び微動の発生状況

地震回数は1日あたり0～5回と少ない状態で推移しました(図1)。火山性微動は観測されませんでした。

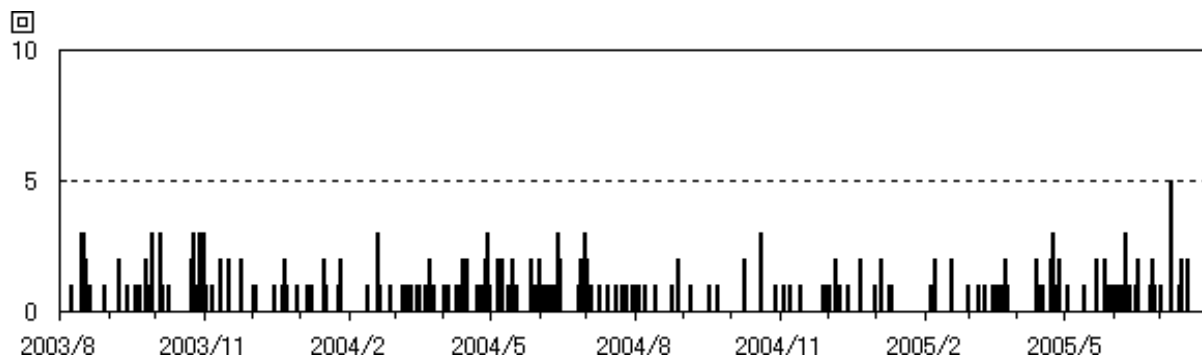


図1 那須岳 日別地震回数(2003年8月1日～2005年7月31日)

なお、今月から山体外に発生したと考えられる地震はグラフの回数から除外しています。

噴煙の状況

噴煙高度および噴気温度は1990年前後まで低下傾向を示していましたが、その後は特段の変化もなく、引き続き低いレベルで経過しています(図2)。

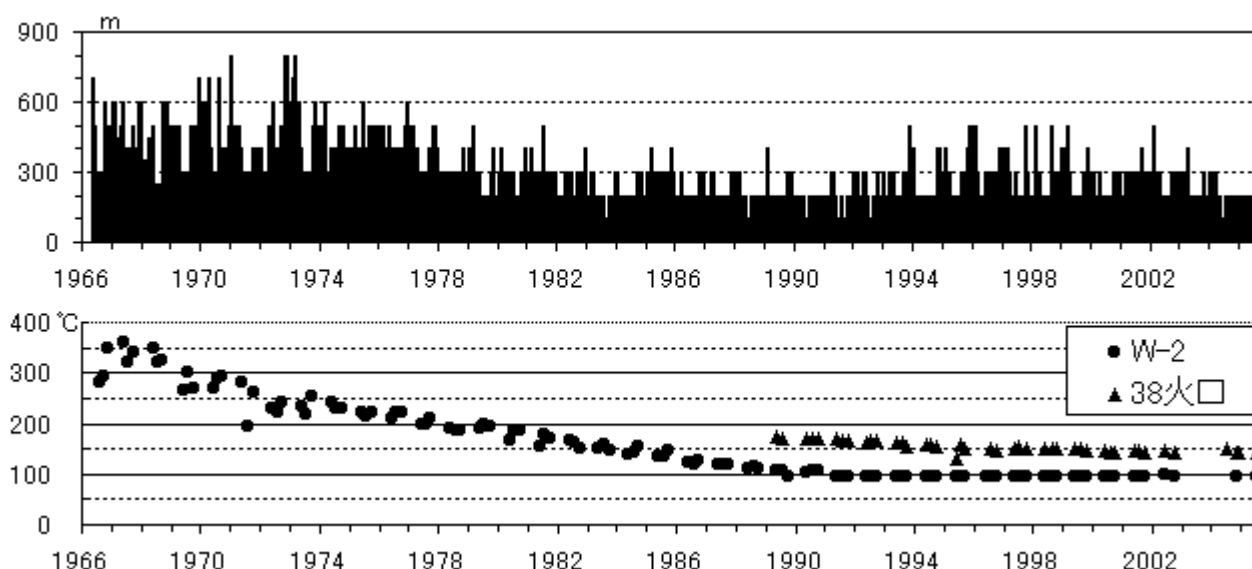


図2 那須岳 月別最大噴煙高度(上段)と噴気温度(下段)(1966年1月～2005年7月)

W-2および38火口はいずれも茶臼岳西側斜面にある温度観測点(図5参照)

地殻変動の状況

G P S連続観測では、火山活動によるとみられる変化はありませんでした(図3)

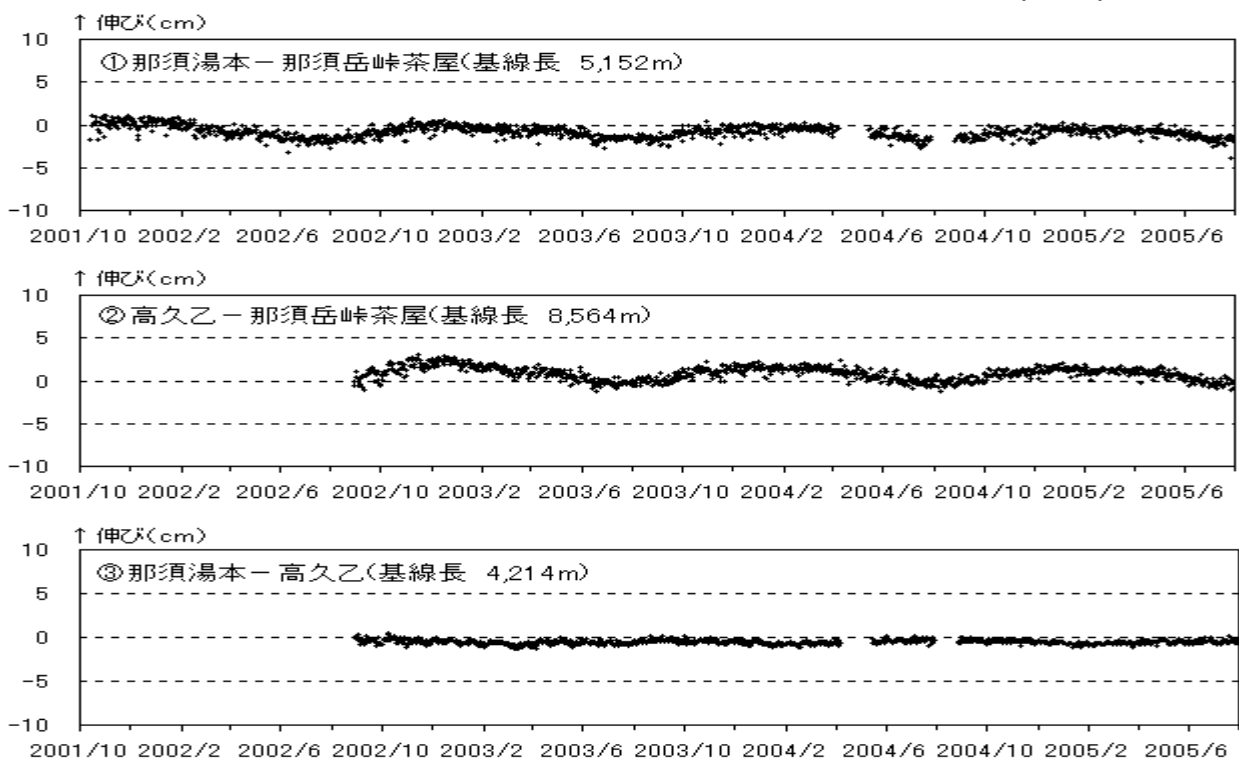


図3 那須岳 G P S連続観測による基線長変化(2001年10月1日~2005年7月31日)
観測点配置は図7を参照

調査観測の結果

2005年7月13~15日にかけて調査観測を実施しました。

・G P S繰り返し観測

G P S繰り返し観測では、火山活動に関連する変動は認められませんでした(図4)

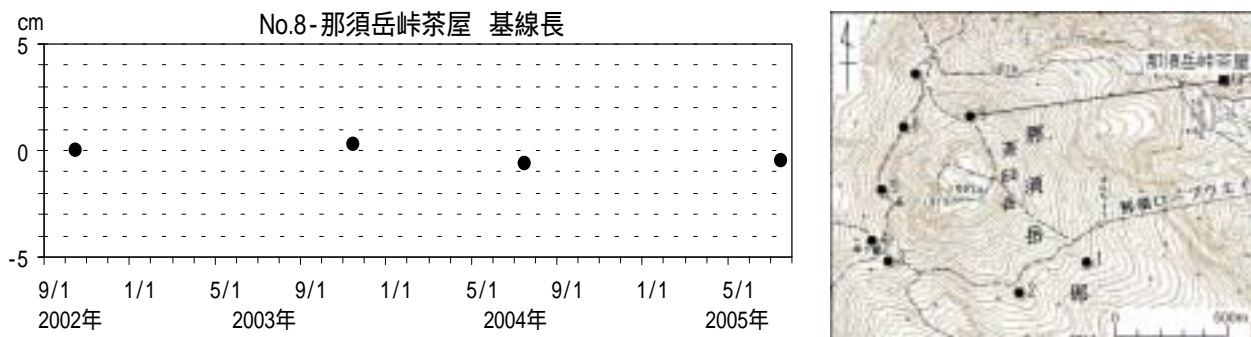


図4 那須岳 No.8-那須岳峠茶屋の基線長変化(左)とG P S繰り返し観測点配置図(右)
(○:繰り返し観測点 □:連続観測点)

・熱観測

茶臼岳西側斜面の噴気温度の最高は141(図5中のAの部分)でした。1990年以降、噴気温度には特段の変化は認められず、引き続き低いレベルで経過しています(図2)。

赤外熱映像装置による観測では、昨年11月と比較して高温域の拡大や移動などは見られず、西側斜面における熱活動の状況に特段の変化は認められませんでした(図5)。

赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

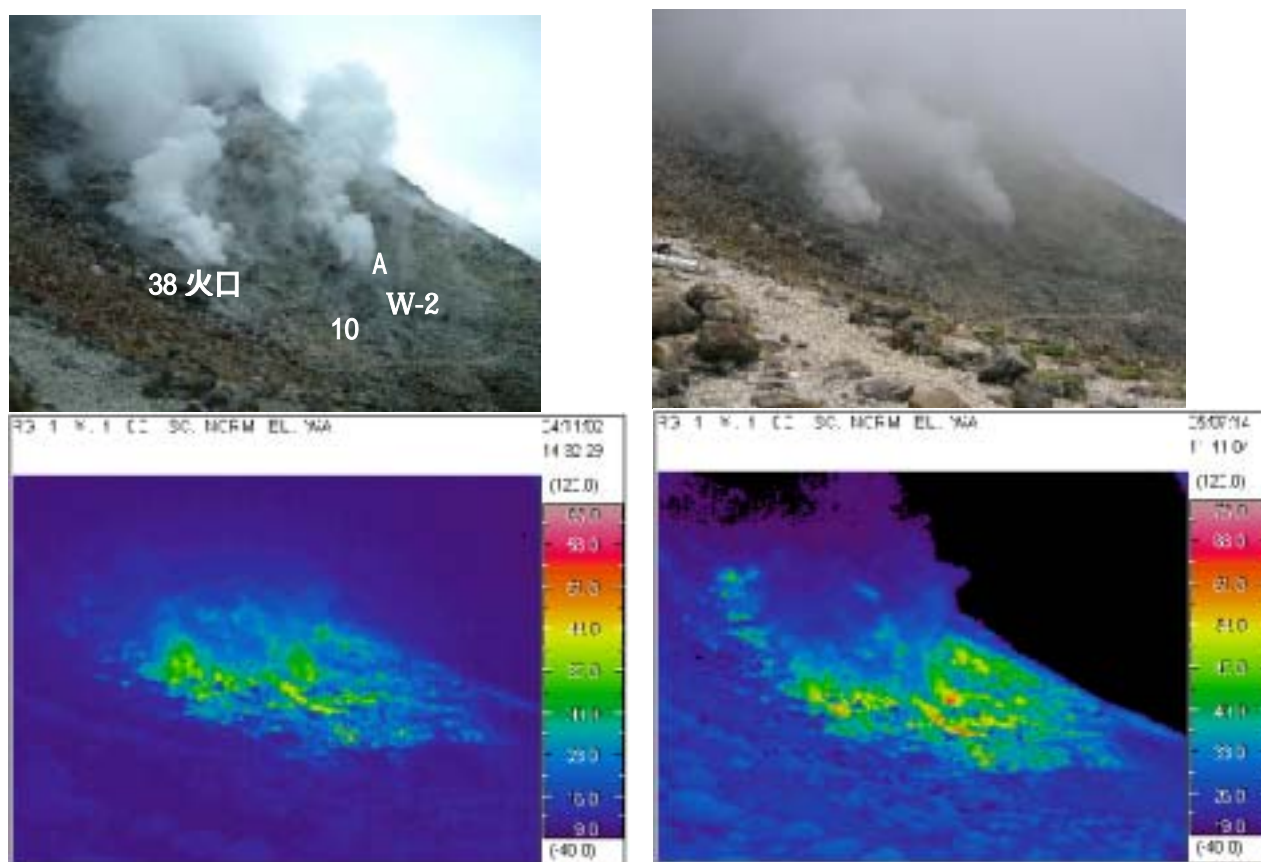


図5 那須岳 茶臼岳西側斜面の地表面温度観測結果(上段:写真 下段:地表面温度分布)
 左側:2004年11月2日撮影 右側:2005年7月14日撮影

・全磁力繰り返し観測

全磁力繰り返し観測では、2004年7月と比べて温度の上昇を示すような傾向(北側の観測点で全磁力値が増加、南側の観測点で減少する変化)は認められませんでした(図6)。

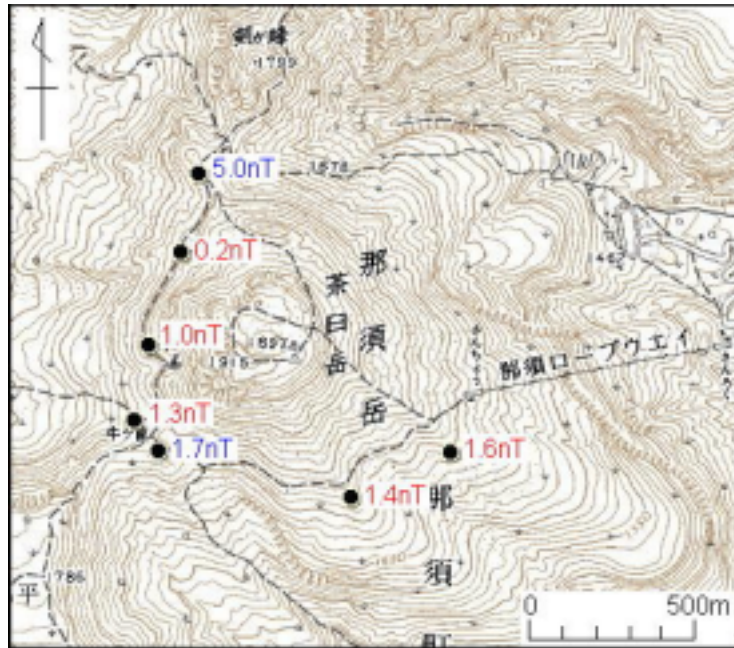


図6 那須岳 全磁力観測変化量分布(2004年7月~2005年7月)
赤字:増加 青字:減少

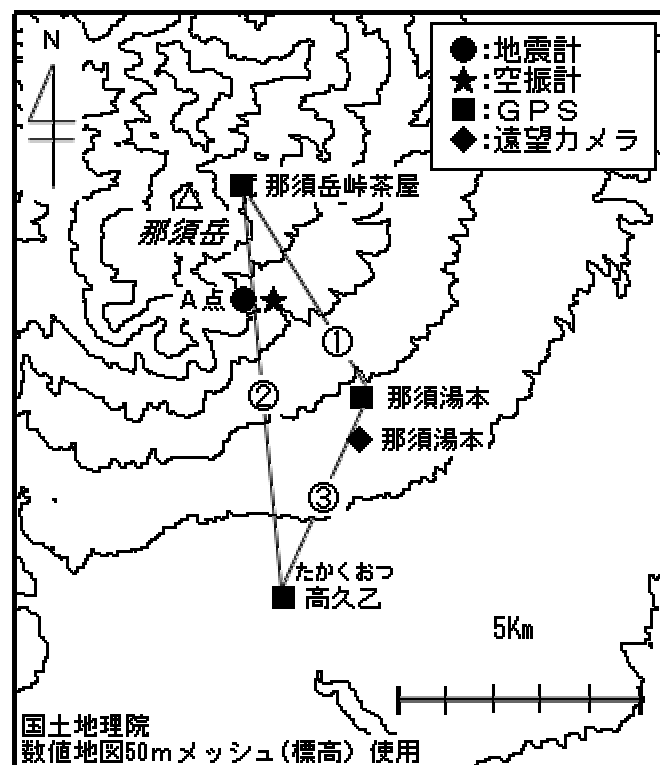


図7 那須岳 気象庁の観測点配置図